

1 目的

- ・本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書生活の習慣化を図る。
- ・読書の感動を文章に表現することとおして、豊かな人間性や考える力を育む。
- ・自分の考えを正しい日本語で表現する力を養う。

2 主催

船橋市学校図書館協議会

3 対象図書

課題読書の部：別紙「課題図書」参照 ※毎日新聞社主催のもの

自由読書の部：自由に選んだ図書。フィクション・ノンフィクションは問わない。

日本で出版された図書であること。

- 対象外**
- ①教科書、副読本
 - ②雑誌
 - ③パンフレット類
 - ④電子書籍や Web 上のもの
 - ⑤読書会用テキスト
 - ⑥日本語以外で書かれた図書（日本語で翻訳されてればよい）
 - ⑦本年度の本コンクール課題図書

4 対象

船橋市内の小学生・中学生

5 用紙・字数

B4 400 字詰め原稿用紙

低学年 （1・2年）2枚以内（本文800字以内）

中・高学年（3～6年）3枚以内（本文1200字以内）

注意事項

- ・縦書きで自筆とし、制限枚数いっぱい書くことが望ましい。自筆不能の場合は理由を書き添える。
- ・1行目から本文に入る。句読点、改行のための空白は字数分とする。
- ・原稿用紙1枚目の欄外 ①題名 ②学年 を書く。
- ・最後の用紙の欄外 ①書名 ②著者名 ③出版社名 を書く。
- ・すべての**応募票**に学校名・氏名・ふりがなを書く。
- ・氏名の誤りがなく、はっきりとわかるように楷書で正しく記入すること。
- ・作品は袋とじにし、作品の1枚目、右上に応募票を添付し、（応募票にはクリップとあるが）ホチキスでとめる。（のりは使用しない）

6 提出について

9月1日（火）までに学級担任へ提出

第72回青少年読書感想文全国コンクール
課題図書

書名	著者名	出版社	定価 (本体価格)	ISBN
----	-----	-----	--------------	------

小学校低学年の部

まこちゃんとコトバロボ	村上いこ 作 たんじあきこ 絵	佼成出版社	1,540円 (1,400円)	978-4-333-02944-0
なにかいいことあった？	ミーシャ・アーチャー 作 石津ちひろ 訳	BL出版	1,870円 (1,700円)	978-4-7764-1147-5
ララのまほうのことば	グレーシー・ジャン さく やのあやこ やく	工学図書	1,980円 (1,800円)	978-4-7692-0514-2
たねはいのちのおわりとはじまり	鈴木 純 著	ブロンズ新社	1,540円 (1,400円)	978-4-89309-747-7

小学校中学年の部

まだまだここから	宇佐美牧子 作 酒井 以 絵	ポプラ社	1,540円 (1,400円)	978-4-591-18596-4
それからぼくはひとりで歩く	アリシア・モリーナ 作 星野由美 訳 犬吠徒歩 絵	ほるぷ出版	1,595円 (1,450円)	978-4-593-10534-2
おいしいお米をつくりたい！：ゆうちゃん、小学生で農家に弟子入りました	谷本雄治 著	汐文社	1,980円 (1,800円)	978-4-8113-3321-2
宇宙でウンチ：みんなの知らない宇宙トイレのひみつ	A・ボンドーニストーン、C・ホワット 作 L・ケンセス 絵 千葉茂樹 訳	あすなろ書房	1,650円 (1,500円)	978-4-7515-3236-2

小学校高学年の部

ポジション！	高田由紀子 作	岩崎書店	1,650円 (1,500円)	978-4-265-84067-0
リヒト！	イノウエミホコ 作	文研出版	1,650円 (1,500円)	978-4-580-82672-4
ミシュカ	エドワルト・ファン・デ・フェンデル、 アヌッシュ・エルマン 作 アネット・スカーブ 絵 野坂悦子 訳	静山社	1,815円 (1,650円)	978-4-86389-846-2
キミの一步アフリカ：ゾウを食べるにはひと口ずつ	味田村太郎 文	あかね書房	1,980円 (1,800円)	978-4-251-09643-2

中学校の部

君の火がゆらめいている	落合由佳 作	講談社	1,650円 (1,500円)	978-4-06-541452-1
チーム・テストならだいじょうぶ	カービー・ラーソン&クイン・ワイアット 作 杉田七重 訳	鈴木出版	1,870円 (1,700円)	978-4-7902-3446-3
リュウグウの砂に挑む：チームで小惑星のサンプルを分析	伊藤元雄 著	くもん出版	1,760円 (1,600円)	978-4-7743-3447-9

高等学校の部

スウィッシュ！	藤ノ木 優 著	徳間書店	1,980円 (1,800円)	978-4-19-866075-8
ノアハム・ガーデンズの家	ペネロピ・ライヴリー 著 斎藤倫子 訳	ゴブリン書房	1,980円 (1,800円)	978-4-902257-48-9
平和のうぶごえ：「原爆の子」として生きた80年	早志百合子 著	毎日新聞出版	2,420円 (2,200円)	978-4-620-32839-3

第72回全国青少年読書感想文コンクール（千葉）応募票

支会番号		17		君津 支会	
区 分		小中（この間はスペースを入力）		自由	
感想文の題名					
所	(ふりがな)	(ちばけん きさらづしりつ)			
	学校名	千葉県 木更津市立			
属	学校名にも全てふりがなをつけてください。	(はたざわしょうがっこう) 畑沢小学校			
	学校所在地	(〒292-0826)			
	電話番号	☎ 0438 — 36 — 3003			
	メールアドレス	✉ hatzawa-e@kisarazu.ed.jp			
	担当者名	(担当者名 遠藤 昭男)			
応募者	応募区分・学年	小中の部 第 3 学年			
	(ふりがな)	(ちば たろう)			
対象図書	氏 名	千葉 太郎			
	書名	歴史			
	作者・著者	千葉 花子			
	シリーズ名	(あれば入力)			
	発行所・発行年	発行所	千葉印刷（この間を削除）	発行年	2002 年
				初版発行年	2002 年
定価・大きさ・ページ数	定価	990 円 (本体900 円)	縦の長さ	ページ数	
			12 c m	308	

※手書きでも PC 入力でもどちらでも構いません。

※作品の右上にクリップで添付してください。

※応募票に記入された作品・対象図書名および氏名・学校名・学年は主催者の刊行物やWebサイトに掲載することがありますことをご了解のうえ、ご記入ください。

第72回全国青少年読書感想文コンクール（千葉）応募票

支会番号		支会			
区 分		小低・小中・小高・中学校		自由・課題	
感想文の題名					
所	(ふりがな)	(ちばけん)			
	学校名	千葉県 郡 市町村立			
属	学校名にも全てふりがなをつけてください。	() 学校			
	学校所在地	(〒)			
	電話番号	☎ — —			
	メールアドレス	✉			
	担当者名	(担当者名)			
応募者	応募区分・学年	小低・小中・小高・中学の部 第 学年			
	(ふりがな)	()			
対象図書	氏 名				
	書名				
	作者・著者				
	シリーズ名				
	発行所・発行年	発行所		発行年	年
				初版発行年	年
定価・大きさ・ページ数	定価	円 (本体 円)	縦の長さ	ページ数	
			c m		

※手書きでも PC 入力でもどちらでも構いません。

※作品の右上にクリップで添付してください。

※応募票に記入された作品・対象図書名および氏名・学校名・学年は主催者の刊行物やWebサイトに掲載することがありますことをご了解のうえ、ご記入ください。

読書感想文コンクール チェックリスト

【作品】

1	題名は書名になっていないか。書名の場合は、「〈書名〉」を読んで の形式にする。 ※書名にならないよう題名の付け方は、指導してください。
2	本文は1行目から書き始めているか。
3	1枚目の欄外に、①題名②学年 が記入されているか。 ※氏名・学校名は記入しない ※作品と応募票の題名を一致させる。
4	作文の最後 最終ページに、①書名②著者名③出版社名 が記入されているか。
5	応募要項の「対象図書」であるか。
6	提出作品は原本1部、コピー2部になっているか。（応募票は原本のみに添付する。）
7	原稿用紙は B4 二つ折り（袋とじ）、ホチキスどめになっているか。

【応募票】

1	氏名の誤りはないか（旧字体等注意する）
2	担当者欄は記入しているか。
3	応募票と原稿用紙に記入されている題名が一致しているか。
4	応募票は原本の作品の1枚目にホチキスで止めているか。
5	楷書で丁寧に記入されているか
6	今年度の千葉県指定の様式 サイズ（A5）になっているか。
7	記入漏れがないか。（書誌事項なども）

【本文】

1	常体・敬体の不一致はないか。（どちらかに統一されているか。）
2	引用文が「引用符」でくくられ、本人の文章と区別されているか。
3	「」や句読点の使い方が適切であるか。 ※「」を用いたとき、2行目以降一番上の1マス開けは一般的な書き方ではない。
4	漢字・ひらがな等の扱いは適切であるか。〈表記の仕方等について参照〉
5	応募した作品は、今後作品の修正ができないことを児童生徒、保護者に周知しているか。
6	規定の文字数（制限枚数）に近い。
7	「」の中は『』になっているか。

〈参考〉表記の仕方等について

文化庁 現代仮名遣いについて

公用文 用字用語の要点より一部抜粋

1 ひらがなで書く

①いう

ものをいう、いうまでもない、どういうふうに 人というもの こういうわけ

②助動詞

～の様だ→～のようだ (やむを得) 無い→ない

③助詞

位→くらい(程度) 等→など(例示) 程→ほど(程度)

④動詞などの一部

有る→ある 無い→ない 居る→いる 成る→なる 出来る→できる 因る→よる

⑤補助動詞

～(し) て行く→いく

～(し) て頂く→いただく

～(し) て下さる→くださる

～(し) て来る→くる

～(て) 見る→みる

～(し) て欲しい→ほしい

～(し) て良い→よい

実際の動作等を表す動詞では「…へ行く」「…を頂く」「…を下さる」「…から来る」「しっかり見る」のように漢字を用いる。

⑥形式名詞

事→こと 時→とき 所処→ところ 物・者→もの

内→うち 為→ため 通り→とおり 故→ゆえ 様→よう 訳→わけ

ただし、「事は重大である」「法律の定める年齢に達した時」「家を建てる所」「所持する物」「裁判所の指名した者」のように、具体的に特定できる対象がある場合には漢字で書く。

⑦指示代名詞

これ それ どれ ここ そこ どこ

⑧漢字の持つ実質的な意味が薄くなっているもの

ありがとう おはよう こんにちは

⑨動詞などの一部

有る→ある 無い→ない 居る→いる・おる 成る→なる 出来る→できる
因る→よる

⑩副詞の一部

おおむね おのずから いかにか いずれ かなり ここに とても
かなり ふと やはり よほど やがて わざと わざわざ
いろいろ たくさん ちょうど

⑪数字の言い方

横書きでは算用数字を使う。

縦書きでは漢数字を使う。

2 表記に関する決まり

①文の書き出しや改行したときには1字下げする。

3 文の組み立て

①文は短くする。一文は60字程度までとすることを目安にしたい。

②同じ助詞の連続を避ける。

③受け身形をむやみに多用しない。 例)「言われる」「述べられる」

④二重否定を避ける。 例)「～しないわけではない」→「～することもある」

⑤主語と述語の関係がわかるようにする。